

（様式6-A）A. 雑誌発表論文による学位申請の場合

小川 将 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Factors influencing bone healing after extirpation with endodontic microsurgery-microscopic apicoectomy for extensive radicular cysts

(広範囲に進展した歯根嚢胞に対する嚢胞摘出および顕微鏡視下歯根端切除後の骨性治癒に影響を及ぼす因子)

THE KITAKANTO MEDICAL JORNAL 69: 315-324, 2019

Masaru Ogawa, Satoshi Yokoo, Takahiro Yamaguchi, Keisuke Suzuki, Takaya Makiguchi

論文の要旨及び判定理由

本研究の目的は、広範囲に進展した歯根嚢胞に対する新しい手術法である嚢胞摘出および顕微鏡視下歯根端切除後の骨性治癒を阻害する因子を臨床的および免疫組織学的に明らかにし、治療向上に寄与することである。対象は嚢胞摘出術および顕微鏡視下歯根端切除を行った概ね3歯以上におよぶ広範囲に進展した歯根嚢胞症例26例である。治療成績は、臨床的評価およびX線学的評価を合わせて総合的に評価し、嚢胞摘出後の骨性治癒に影響を及ぼす臨床的因子および免疫組織学的因子について統計学的に検討した。臨床的検討では、嚢胞摘出後の穿通性骨欠損の存在、発生部位が上顎の2項目が歯根嚢胞摘出後の骨欠損腔縮小率に負の影響を及ぼす有意な因子となった。免疫組織学的検討では、歯根嚢胞上皮におけるIL-1 $\beta$ およびTNF- $\alpha$ の発現が有意な負の因子となった。また、臨床的因子を説明変数とした多変量解析では穿通性骨欠損の存在が有意な負の因子となった。本研究から嚢胞摘出後の穿通性骨欠損の存在、嚢胞上皮へのIL-1 $\beta$ 、TNF- $\alpha$ の高発現および発生部位が上顎であることが広範囲に進展した歯根嚢胞摘出後の骨性治癒を阻害する因子であることが明らかになった。広範囲に進展した歯根嚢胞の原因歯への顕微鏡下歯根端切除を併用した治療は世界最初の試みであり、かつ本研究は嚢胞摘出後の骨性治癒に影響する因子を同定した最初の研究であるため、博士（医学）の学位に値するものと考えられた。

(令和2年1月7日)

審査委員

主査 群馬大学教授（医学系研究科）  
救急医学分野担任 大嶋 清宏 印

副査 群馬大学教授（医学系研究科）  
生体構造学分野担任 松崎 利行 印

副査 群馬大学教授（医学系研究科）  
眼科学分野担任 秋山 英雄 印

参考論文

1. Laboratory Risk Indicator for Necrotizing Fasciitis of the Oro-Cervical Region (LRINEC-OC): a possible diagnostic tool for emergencies of the oro-cervical region

Emergency Medicine International: 2020. (in press)

(口腔頸部領域に生じた壊死性筋膜炎の診断におけるLRINEC-OC scoreの開発と有用性の検討)

Ogawa M, Yokoo S, Takayama Y, Kurihara J, Makiguchi T, Shimizu T

2. Conservative reduction by lever action of chronic bilateral mandibular condyle dislocation  
(陳旧性両側顎関節脱臼に対する槓杆作用を用いた非観血的整復)  
Cranio 33: 142-147, 2015.  
Ogawa M, Kanbe T, Kano A, Kubota F, Makiguchi T, Miyazaki H, Yokoo S.
4. セツキシマブの初回投与時にIgE介在型反応によるアナフィラキシーショックを発症した1例  
日本口腔外科学会雑誌 64 : 285-290, 2018.  
小川 将, 横尾 聡, 高山 優, 牧口 貴哉, 栗原 淳, 清水 崇寛.
5. 手術非適応口腔扁平上皮癌頸部リンパ節再発に対する conversion therapy としてセツキシマブ併用放射線療法を施行した1例.  
日本頭頸部癌学会雑誌 44: 316-320, 2018.  
小川 将, 横尾 聡, 高山 優, 牧口 貴哉, 栗原 淳, 清水 崇寛.
- 6 .Intraosseous intraneural perineurioma derived from the inferior alveolar nerve with an abnormality of chromosome 22 and expression of the BCR-ABL fusion gene: report of a case and review of recent literature.  
(下歯槽神経より発症した神経周膜腫の1例)  
World journal of surgical oncology 16: 1481-1488, 2018.  
Kurihara J, Yokoo S, Ichikawa M, Shimizu T, Ogawa M, Seki M.
7. Treatment of microstomia caused by burn with a nasolabial flap—an ingenious approach for tugging and fixation of the oral commissure.  
(鼻唇溝皮弁を用いた小口症の治療)  
The Journal of craniofacial surgery 25: 568-570, 2014.  
Makiguchi T, Yokoo S, Koitabashi A, Ogawa M, Miyazaki H, Terashi H.
8. Supercharged pectoralis major musculocutaneous flap  
(大胸筋皮弁再建へ外側胸動脈による血行付加)  
The Journal of craniofacial surgery 24: 179-182, 2013.  
Makiguchi T, Yokoo S, Miyazaki H, Nobusawa A, Ogawa M, Hashikawa K, Terashi H.
9. Facial Aesthetic Analysis of Prosthetic Recovery after Partial Maxillectomy Using a Non-Contact 3-Dimensional Digitise  
(上顎部分切除後の顎義歯による整容的顔貌回復 非接触型三次元表面形状装置による解析)  
THE KITAKANTO MEDICAL JORNAL 67: 313-322, 2017  
Kanbe T, Yokoo S, Ogawa M, Takayama Y, Gomi A, Makiguchi T

（様式6， 2頁目）

最終試験の結果の要旨

歯根嚢胞の発生機序についておよび抜髄後の根管細菌に対する免疫機構について  
試問し満足すべき解答を得た。

（令和2年1月7日）

試験委員

群馬大学教授（医学系研究科） 口腔顎顔面外科学分野担任	横尾 聡	印
群馬大学教授（医学系研究科） 病理診断学分野担任	小山 徹也	印

試験科目

主専攻分野	口腔顎顔面外科学	A
副専攻分野	病理診断学	A